

2023年3月期 第3四半期 決算説明会

2023年2月7日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2023年3月期 第3四半期決算状況

1. 概要	4
2. 売上高・利益	5
3. セグメント別業績	7
・自動車電池（国内）	8
・自動車電池（海外）	9
・産業電池電源	10
・車載用リチウムイオン電池	11
・特殊電池およびその他	12
4. 貸借対照表	13
5. トピックス	14

2023年3月期 第3四半期決算状況

- 世界経済は、ウクライナ情勢などに起因する原材料価格上昇、エネルギーコスト増加などにより物価が上昇するなど、先行きは引き続き不透明な状況です。ただし、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞が緩和されつつあり、中国ではゼロコロナ政策が見直されました。また、日銀が長期金利の許容変動幅を拡大したことにより、急激に進行した円安の流れに変化が生じました。
- 売上高および営業利益は、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量の増加、トルコ拠点の連結子会社化に加え為替の円安影響もあり増加しましたが、経常利益は、持分法による投資損益の悪化や為替差損の計上などがあり前年並みとなりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年度に減損損失を計上していた影響がなくなり、増加しました。

売上高・営業利益については主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量の増加、トルコ拠点の連結子会社化に加え、為替の円安影響もあり増加しています。

経常利益については、持分法投資損益の悪化、一部の国での為替差損の計上により前年並みにとどまっています。

一方親会社株主に帰属する当期純利益は前年度に減損損失を計上しており、その影響がなくなったため増加しています。

2. 売上高・利益



	2021 年度 第3四半期 (累計)	2022 年度 第3四半期 (累計)	増減	(前期比)
売上高	3,131	過去最高 3,749	+618	(+19.7%)
営業利益 (営業利益率)	139 4.4%	過去最高 190 5.1%	+51 +0.7P	(+36.6%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	151 4.8%	過去最高 198 5.3%	+47 +0.5P	
経常利益	161	161	△0	(△0.1%)
特別利益	23	16	△7	
特別損失	74	5	△69	
税前四半期純利益	110	172	+62	
法人税等	49	57	+8	
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	36	+9	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	33 1.1%	78 2.1%	+45 +1.0P	(+134.4%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	43 1.4%	86 2.3%	+43 +0.9P	
国内鉛建値 (万円/t)	31.20	34.71	+3.51	
L M E (US\$/t)	2,266	2,093	△173	
為替 (円/US\$)	111.45	136.85	+25.40	

5

© 2022 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2022年度 第3四半期の連結売上高については3,749億円と前年対比で618億円の増収です。

営業利益は190億円で51億円の増益、のれん等償却前の営業利益は198億円で47億円の増益です。

売上高・営業利益は第3四半期としては過去最高を更新しています。

一方で経常利益については、持分法損益の悪化、為替差損が営業外損益に計上されており、161億円とほぼ前年並みにとどまっています。

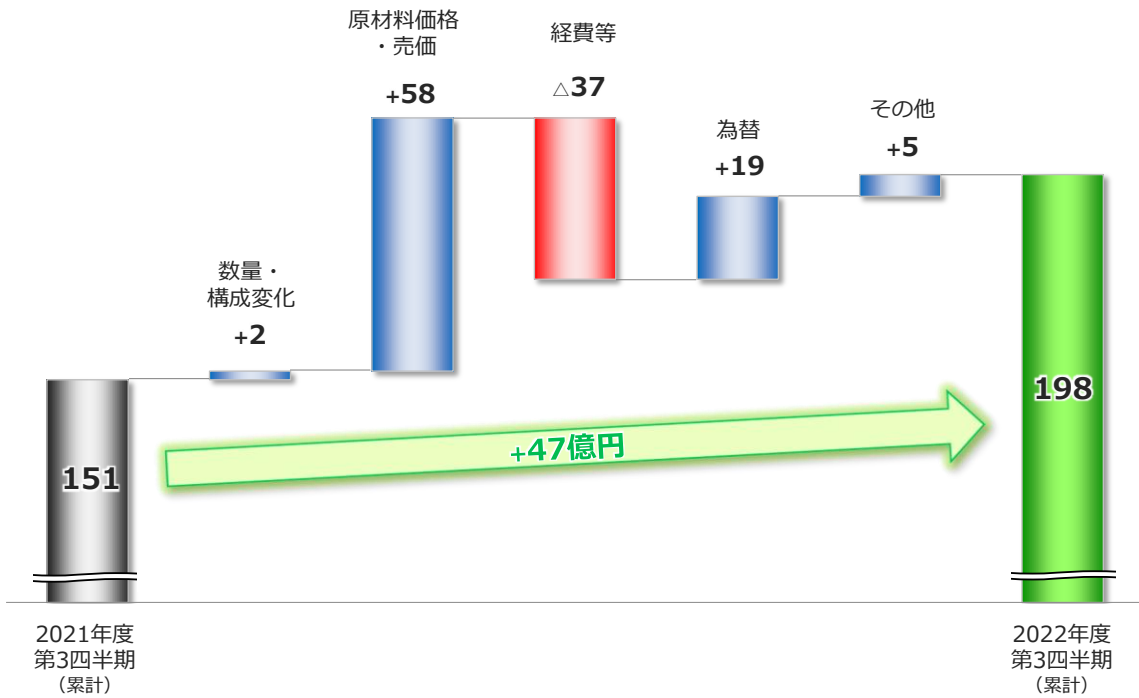
特別損失については、前年中国を中心とした減損損失を計上しています。今期はその影響がなくなったため、大きく改善しています。

四半期純利益については78億円となり、45億円の増加となっています。

2. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

のれん等償却前営業利益は198億円となり、47億円の増益となっています。

原材料高の影響が一定ありましたが、値上げが順調に進んでおり、原材料価格・売価で58億円のプラス要因となっています。

一方で経費等で37億円のマイナスとなっています。海外を中心とした物流費・エネルギー費などの経費の増加、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売増加に伴う経費の増加によるものです。

また総じて円安傾向なので為替の持ち上げ効果が19億円ほどあります。

3. セグメント別業績



(億円)

		2021 年度 第3四半期 (累計)		2022 年度 第3四半期 (累計)		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	588	43 (7.3)	631	42 (6.7)	+43	△1 (△0.6)
	海外	1,380	71 (5.2)	1,869	102 (5.5)	+489	+31 (+0.3)
産業電池電源		710	20 (2.9)	672	35 (5.2)	△38	+15 (+2.3)
車載用リチウムイオン電池		332	13 (3.9)	452	10 (2.2)	+120	△3 (△1.7)
特殊電池およびその他		121	3 (2.7)	124	8 (6.8)	+3	+5 (+4.1)
合計		3,131	151 (4.8)	3,749	198 (5.3)	+618	+47 (+0.5)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

自動車電池（国内）は前年対比で売上高43億円の増収ですが、営業利益はほぼ前年並みとなっています。

自動車電池（海外）は前年対比で売上高489億円と大きく増収です。また営業利益についても31億円の増益となっています。

産業電池電源は前年対比で売上高△38億円の減収ですが、営業利益は15億円の増益になっています。

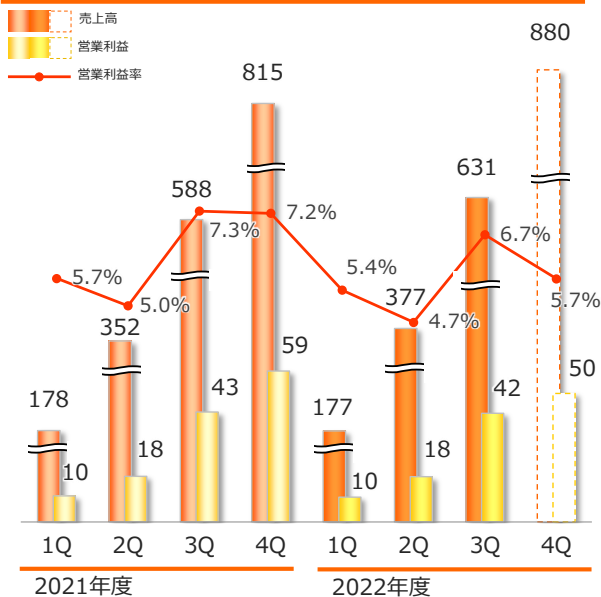
車載用リチウムイオン電池は前年対比で売上高120億円の増収、一方で営業利益は3億円の減益になっています。

特殊電池およびその他は前年対比で売上高3億円の増収、営業利益は5億円の増益となっています。

3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

増収減益

(億円)

2022年度 第3四半期商況

- 新車向け販売数量は、半導体不足などによる新車メーカー減産の影響により前年並みに推移
- 補修向け販売数量は微減となったが、値上げなどにより売上高が増加

増減益要因

数量・構成変化	△8
原材料価格・売価	+7
合理化・経費等	+0

自動車電池（国内）は前年対比で売上高43億円の増収です。

新車向けの販売数量は半導体不足の影響が今年度も残っています。昨年度も影響があり、結果として前年並みの推移となっています。一方で鉛価格の上昇に伴う売価の是正により増収になっています。

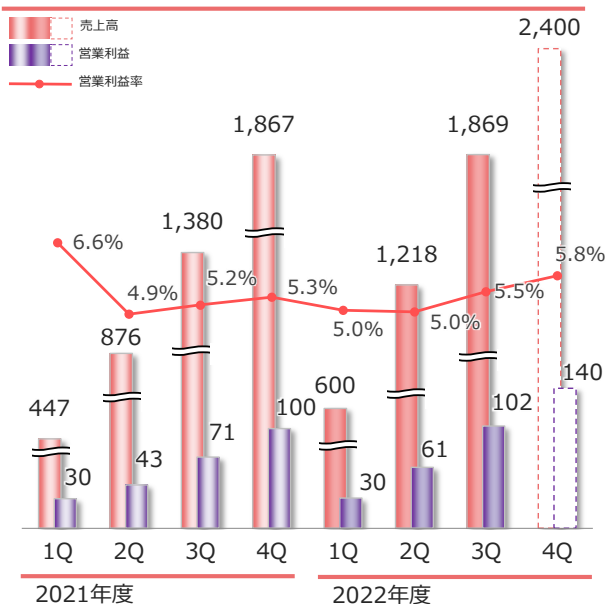
補修向けの販売数量は物量自体は微減でしたが、値上げなどが進んだ結果、売上高は増加しています。

営業利益については前年並みにとどまりました。原材料高騰などの影響は売価で一定カバーができています。

3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

増収増益

(億円)

2022年度 第3四半期商況

- ▶ 東南アジアでの自動車・オートバイ用販売数量は好調をキープ
- ▶ トルコ拠点の連結化により自動車用販売数量が増加
- ▶ 原材料価格高騰などに伴う売価見直し、円安影響により売上高が増加

増減益要因

数量・構成変化	△12
原材料価格・売価	+40
経費等	△16
為替	+19

自動車電池（海外）は前年対比で売上高489億円の増収です。

東南アジアのタイ・ベトナムを中心に自動車・オートバイ用の物量は堅調です。

今回の増収の主な要因としてはトルコ拠点の連結化があります。

原材料価格高騰に伴う売価是正、円安による換算による影響により売上高が増加しています。

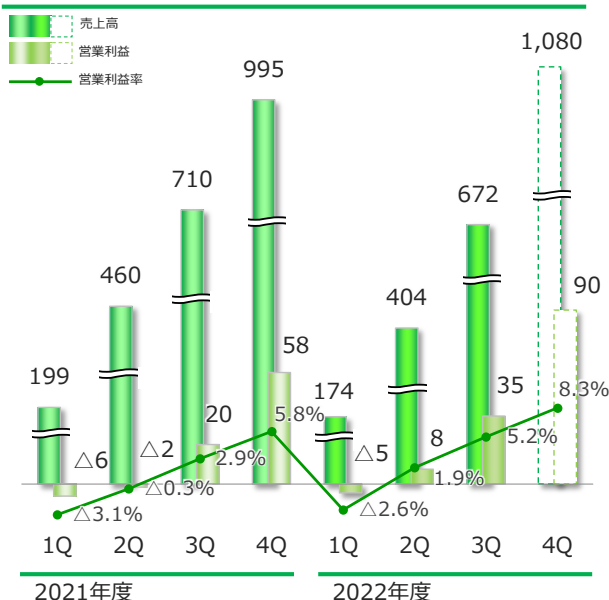
営業利益は前年対比で31億円の増益となりました。

物量の構成変化により、一部マイナス影響がありましたが、原材料価格高騰に伴う売価是正が進んでいることもあり、原材料価格・売価でカバーできています。

またトルコ拠点の連結化による営業利益の増加、為替の円安影響により増益となっています。

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



減収増益

(億円)

2022年度 第3四半期商況

- ▶ 北海道大規模風力発電向け系統連系用リチウムイオン電池の納入が前年度終了したことで売上高が減少
- ▶ 再生可能エネルギー用リチウムイオン電池の販売が増加
- ▶ バックアップ用電池電源装置はミニUPSの部品長納期化により売上高が減少
- ▶ フォークリフト用は新車補修ともに数量が堅調に推移

増減益要因

数量・構成変化	+14
原材料価格・売価	+2
経費等	△1

産業電池電源は前年対比で売上高38億円の減収です。

2Qと同様ですが、北海道の大規模風力発電向けのリチウムイオン電池の納入が前年度で終了しており、売上高が減少しています。

一方で再生可能エネルギー用リチウムイオン電池の販売が非常に増えており、今年度も出荷があり増加の側面もあります。

非常用電源に分類されるバックアップ用の電池電源装置は、新型コロナの影響に伴う部品長納期化で売上高が減少しています。

フォークリフト用は新車・補修ともに堅調に推移しています。

営業利益については減収ながら増益となっています。

逆ザヤ案件である北海道大規模風力発電向けのリチウムイオン電池がなくなった影響により、大きくプラスになっています。

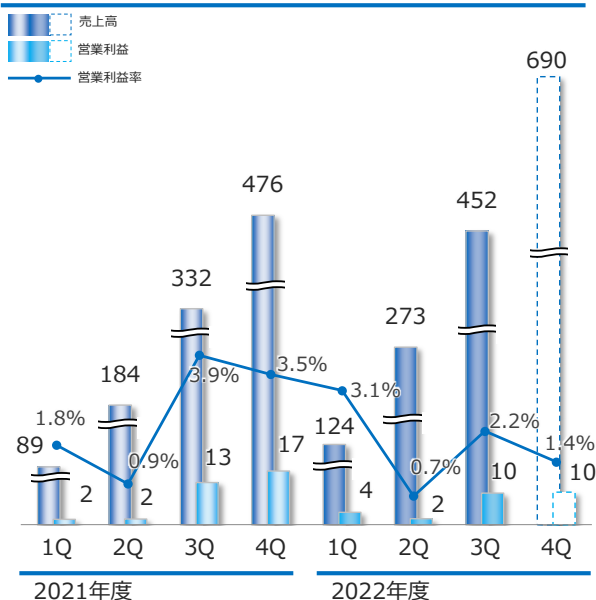
また原材料価格の高騰に伴う売価是正もしっかりできています。

車載用リチウムイオン電池

増収減益

(億円)

売上高・営業利益・利益率



2022年度 第3四半期商況

- ▶ [ブルーエナジー (BEC)]
ハイブリッド車用リチウムイオン電池は第2工場の稼働開始により販売数量が増加
- ▶ [リチウムエナジー ジャパン (LEJ)]
プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池搭載車種の販売が減少

増減益要因

数量・構成変化	+8
原材料価格・売価	+9
経費等	△20

車載用リチウムイオン電池の売上高は前年対比で120億円の増収です。

ブルーエナジーは、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売増加により物量が増えています。

第2工場が本格稼働を始めており、物量増による販売増が増収の要因となっています。

一方でリチウムエナジー ジャパンはプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量が、お客様の関係で少し減っています。

ただし昨今の原材料高などについては売価是正ができています。

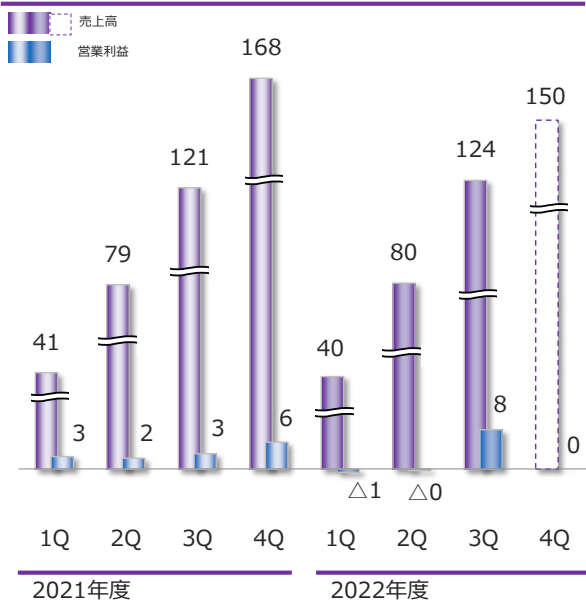
原材料価格・売価でしっかりとプラスを確保しています。

経費が膨らんでいるのがブルーエナジーの増販に伴う変動費・固定費の増加、加えて5月よりリチウムイオン電池事業部内にBEV電池開発室を設置しており、研究開発費が増えています。その影響により、セグメント全体として若干の減益となっています。

3. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

売上高・営業利益



増収増益

(億円)

2022年度 第3四半期商況

- 航空機用リチウムイオン電池は主としてエアライン（補修）向け販売数量が増加

増減益要因

航空機用リチウムイオン電池の販売増加ならびに経費の減少により増益

航空機用リチウムイオン電池は主としてエアライン（補修）向け販売数量が増加しています。

またその販売増加の影響、本社管理間接部門の経費の減少により、利益は改善しています。

4. 貸借対照表

		(億円)	
<ul style="list-style-type: none"> 現金及び預金 $\Delta 7$ 売上債権 +64 棚卸資産 +227 その他 $\Delta 5$ 	流動資産	流動負債	<ul style="list-style-type: none"> 設備を含めた仕入債務 +129 短期借入金 +225 コマーシャル・ペーパー +65 社債 +100 未払金等 $\Delta 26$
<ul style="list-style-type: none"> 建物及び構築物 +32 機械装置及び運搬具 +74 土地 +6 建設仮勘定 +9 	有形固定資産	固定負債	<ul style="list-style-type: none"> 社債 $\Delta 100$ 長期借入金 $\Delta 40$ リース債務 $\Delta 7$ 繰延税金負債 $\Delta 8$ 退職給付に係る負債 +7
<ul style="list-style-type: none"> 投資有価証券 $\Delta 9$ 退職給付に係る資産 +7 繰延税金資産 +4 	無形固定資産	純資産	<ul style="list-style-type: none"> 利益剰余金 +30 その他有価証券評価差額金 $\Delta 20$ 為替換算調整勘定 +81 非支配株主持分 +15
	投資その他の資産		
	総資産 5,252 (+445)		

(注) 2022/12末時点
増減は2022/3末対比

	2022/3末	2022/12末
自己資本比率	44.8%	42.7%
借入金総額	825億円	1,074億円

総資産は5,252億円と3月末対比で445億円の資産増となっています。

流動資産は279億円増加、棚卸資産が非常に増加している影響が出ています。また有形固定資産については121億円増加、ブルーエナジー第2工場の建設が進んだことが主な要因です。

負債の部については流動負債が481億円増加しています。返済まで1年以内になったことで固定負債から流動負債となった借入金もありますが、全体として有利子負債が膨らんでいます。12月末時点の借入金総額は1,074億円と、3月末と比較して有利子負債がかなり膨らんでいる状況です。

純資産については、四半期純利益の影響、その他有価証券評価差額金などを加味した結果、107億円の増加となっています。

結果、自己資本比率は2ポイントほど下がっていますが、42.7%と引き続き安定的な状況だと考えています。

Hondaとの協業に向けた基本合意の締結について



協業目的

急速に拡大するバッテリー需要に対応するため、グローバル市場において高い競争力を持つリチウムイオンバッテリーと、その製造方法を研究開発するとともに、主要原材料のサプライチェーンや効率的な生産システムの構築を目指す

協業に向けた検討範囲

- EV搭載用を中心とした高容量・高出力なリチウムイオンバッテリーおよび、その製造方法についての研究開発
- 研究開発に関する特許等の知的財産の構築および管理
- 研究開発による技術を用いた製品や販路の企画
- 主要原材料のサプライチェーンを含めた効率的な生産オペレーションの設計等

当社はホンダ様との協業に向けた基本合意の締結を行いました。協業目的は記載していますが、急速に拡大するバッテリー需要に対応するため、グローバル市場において高い競争力を持つリチウムイオンバッテリーと、その製造方法を研究開発するということ、そして主要原材料のサプライチェーンや効率的な生産システムの構築を共に目指すという協業目的のもと、基本合意を締結しています。

検討範囲としては、記載の4項目です。

引き続き暖かく見守っていただけますと幸いです。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
 コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 西島 務 ・ 田中 祥太
 Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

最後ですが、3Qはハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売増加、トルコの連結化の影響などにより、売上高・営業利益は3Qとしては過去最高となっています。

今年度は第五次中期経営計画の最終年度という事もあり、期初に掲げている業績予想数値は修正していません。

ここまで概ね予定通りの実績を上げることができています。

一方で部材不足の影響、新車メーカーの生産・販売状況により変化が激しくなっているのが足元の経営環境です。

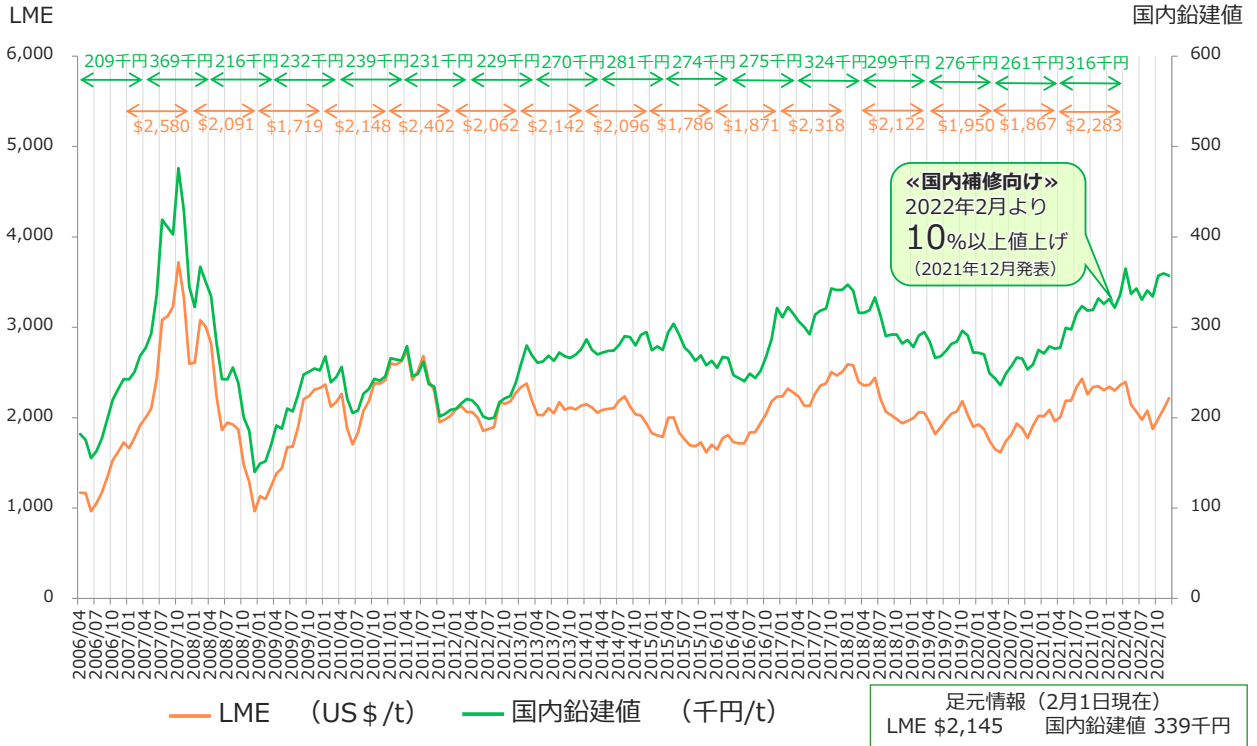
また各国のインフレ抑制のための利上げや景気後退の懸念もあります。

当社としては、残り僅かな期間ですが、さらなるコストの削減取り組み、できる限りの売価是正の取り組みを進めていきます。

特に車載用リチウムイオン電池については、電動車の需要拡大への対応ということで、まずはハイブリッド車用の生産能力増強を確実に進めていきます。またホンダ様との協業としてEV搭載用を中心とした開発を加速し、さらなる電動車の普及に貢献し、世界のお客様に快適と安心をお届けするということがカーボンニュートラルの実現に向けて価値創造を進めていきます。

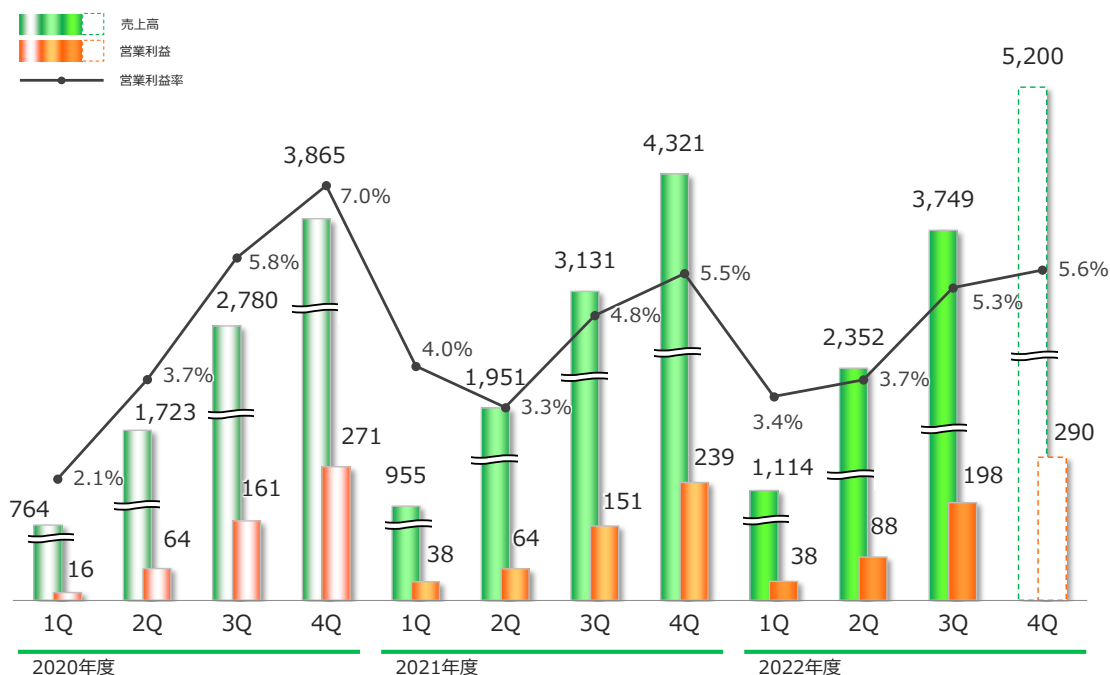
參考資料

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。